

2. 三極コア出願の日米欧比較

(1) 三極コア出願の定義

経済活動のグローバル化の進展により、重要な発明は国内だけではなく、外国にも出願される。外国出願の基となった国内出願を計る指標は様々あるが、ここでは、世界市場の大部分を占め、かつ特許出願数の多い日米欧の三極について、

ア) 日米欧いずれかの国になされた特許出願であって、その出願を優先権の基礎にして特許協力条約に基づく国際特許出願がなされたもの（PCTルート出願）

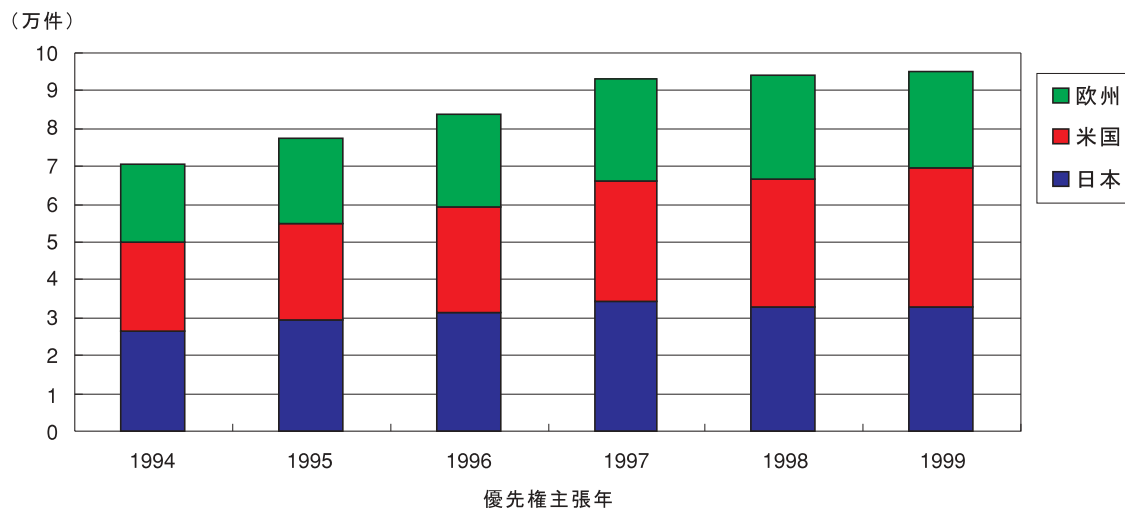
イ) 日米欧いずれかの国になされた特許出願であって、その出願を優先権の基礎にしてPCTルート以外で他の二極のいずれかへ出願がなされたもの（パリルート出願）

の双方を「三極コア出願」と定義し、その構造や動向の分析¹を行った。

(2) 三極コア出願件数の推移

重要出願として位置づけられる三極コア出願は、最近では年間9万件近く出願され、増加傾向にある。なお、出願人国籍別でみた三極コア出願件数は、日米欧でほぼ同程度である。

【出願人国籍別三極コア出願件数の推移】



¹ 分析の条件は以下のとおり。

調査対象国：日本（JP）、米国（US）、欧州（EP）、国際出願（WO）

なお、欧州は、ベルギー（BE）、スイス（CH）、ドイツ（DE）、フランス（FR）、イギリス（GB）、オランダ（NL）、スウェーデン（SE）及びEPC出願を指す。

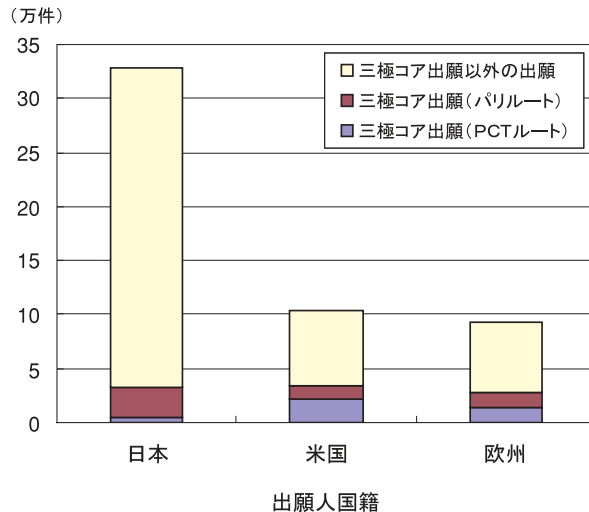
調査対象期間：優先権主張年が1994年～1999年の出願で、2003年6月12日までにダウエント社が収録した特許出願データを対象とした。

調査使用データベース：ダウエントデータベースWPI（日本、欧州については公開されたものを集計している。米国については登録されたものを集計しているため、未審査または拒絶された出願はデータに含まれていない。）

解析内容：日米欧いずれかの国になされた特許出願であって、その出願を優先権の基礎にして特許協力条約に基づく国際特許出願がなされたもの、あるいは他の二極のいずれかへ出願されたものを国別、技術分野別に算出。

優先権主張年が1998年の出願件数をルート別に見ると、日本の三極コア出願率¹は約1割であるのに対し、米国及び欧州の三極コア出願率は3割近くを占め、日本は三極で最も低い。また、三極コア出願に占めるPCTルート出願の割合（PCTルートの利用率）は、米国、欧州が約5割であるのに対して、日本はこれらの国と比較して低い。

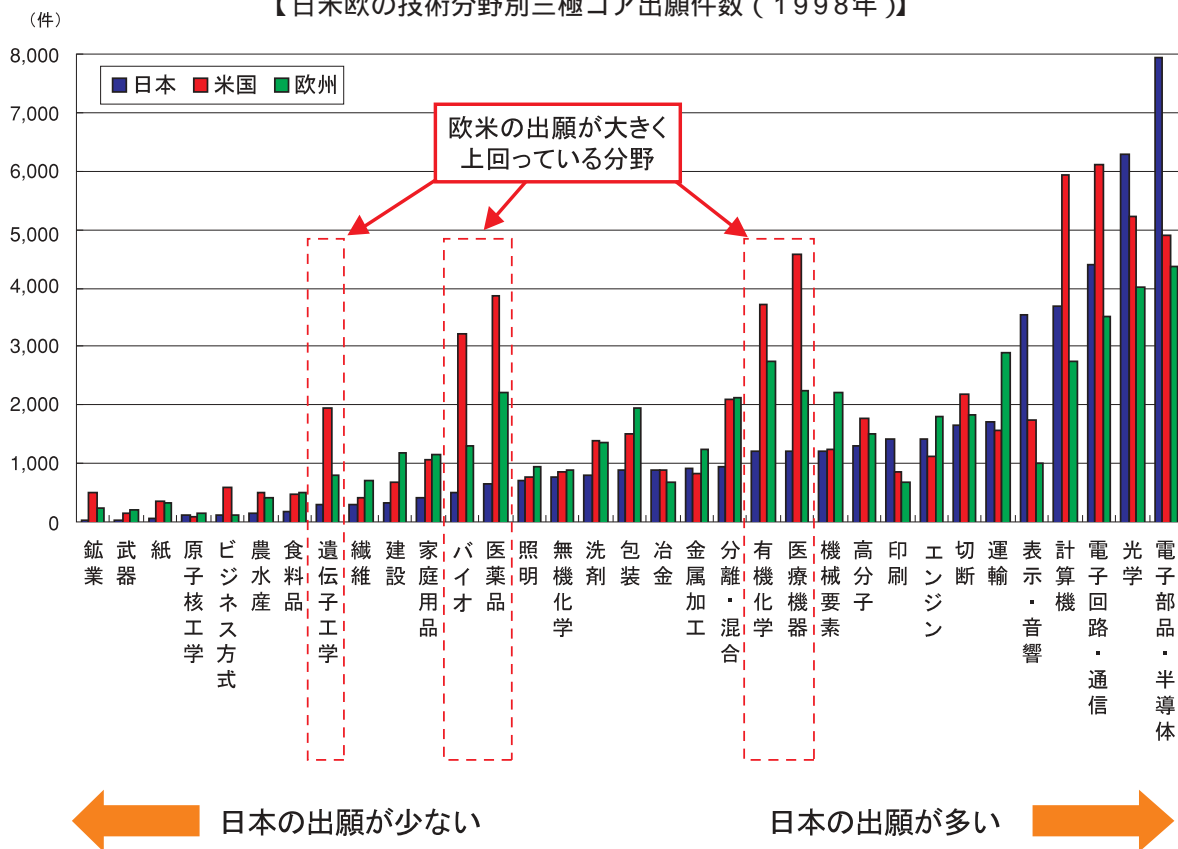
【ルート別三極コア出願件数（1998年）】



(3) 技術分野別三極コア出願の日米欧比較

1998年における日米欧の技術分野別の三極コア出願件数を見ると、日本は「電子部品、半導体」、「光学」、「表示、音響」の分野での三極コア出願件数が多い。しかし、「遺伝子工学」、「医薬品」、「バイオ」等のライフサイエンス関連分野における三極コア出願件数は、欧米が日本を大きく上回る。また、「計算機」、「電子回路、通信」の分野においては、日米格差が拡大している。

【日米欧の技術分野別三極コア出願件数（1998年）】



¹ 出願人国籍別に計算した三極コア出願の占める割合

日本の技術分野別三極コア出願率は、日本の三極コア出願件数が多い分野である「電子部品、半導体」、「光学」分野では、三極コア出願率は16%程度であるのに対して、「遺伝子工学」、「バイオ」分野では30%以上と高く、これらの分野ではグローバルな出願が行われているものと考えられる。今後、他の技術分野においてもグローバルな権利取得へ向けた一層の取組が期待される。

【日本の技術分野別三極コア出願率（1998年）】

